

2023年3月期 決算説明会における質疑応答

2023年4月28日
NEC ネットズエスアイ株式会社

※新年度：2024年3月期

前 期：2023年3月期（前4Q：2023年3月期第4四半期（2023年1～3月期））

質問者 A

Q：新年度の予想値について、営業利益（OP）率を見るとネットワークソリューション（NWS）、社会環境ソリューション（ESS）は改善を見込んでいる一方で、DXソリューション（DXS）は前年並みとセグメントごとに違いがありますが、それぞれのセグメントの考え方を教えてください。

A：DXSはDX/働き方改革の成長に加えて受注残の消化で増収を見込んでおり、売上総利益（GP）率の改善も含めて、GPはしっかり増加させます。一方で、戦略も進展してきており、中計目標に向けて更に加速させるため、成長コストとしてSG&Aの増加を織り込んでいるため、結果として、OP率では横ばいとなっています。

NWSは通信事業者向けの厳しさは継続する見込みですが、社会基盤関連の強さを織り込んでいます。また、前4Qの受注が強かったため、その売上が新年度期待出来ます。OPはその増収効果と収益性の改善による拡大を考えています。

ESSは、半導体/部材不足が解消方向になっており、これに伴う受注残の消化とともに収益性を改善させて増益を目指す考えです。

質問者 B

Q：各セグメントの事業環境について教えてください。特に中期経営計画で想定していたことと比べて、足元どうでしょうか。

A：DXSは、既存事業とDXサービス事業との端境期という状況は足元も継続していますが、DXサービスへの置き換えは進んでおり、緩やかではありますが、明るい方向に向かっていると理解しています。そのような中、どこまで体制を強化してアクセルを踏んでいくか、成長と投資のバランスを上手く考えていく必要があると考えています。

NWSは、5Gが成長する想定でしたが、通信事業者は明確に投資にブレーキをかけており、これは今年度も続くと考えています。加えて、ローカル5Gも、その特性を活かした特殊用途では少しずつ立ち上がってきていますが、本格化はまだ先で、想定から2年ほど遅れている状況です。一方で、海洋、宇宙といった社会基盤関連は想定以上の動きであり、ここで通信事業者向けの減少をカバーしつつ、来る次世代ネットワーク分野の本格化に備えたいと思います。

ESSについては、まちづくりというテーマで自治体におけるデジタル化投資が活発化し

てきており、また消防分野なども更新の投資が戻ってくるタイミングでもあり、しっかり取り込んでいきたいと思っています。

Q：新年度予想値である営業利益 240 億円は中期経営計画で想定していた 2 年目と比べて低いことが想像されますが、目標の 340 億円達成に向けた考え方について教えてください。

A：円安、半導体/部材不足といった環境変化は底打ちし、前 4Q には改善の兆しが見られています。新年度は引き続き積極的な投資を行います。最終年度に向けて、このままのペースで増やしていくという訳ではなく、一方で投資効果が出てきます。加えて、今期はこの予想値をボトムとして更に積上げていくことで、最終年度に弾みをつけていきたいと考えています。

Q：上期の業績予想がなくなったようですが、何故でしょうか。また、利益の上期・下期のバランスはどう見たら良いでしょうか。

A：当社の場合、どうしても期末に業績の比重が大きくなり、上期は変動しやすいため、却って投資家の皆様をミスリードしかねないという反省によるものです。ただし、上期・下期のバランスについての傾向感は変わらないと考えておりますし、想いとしては、上期についても前年以上の業績を上げたいと考えています。

質問者 C

Q：コロナが落ち着いてきて、オフィス回帰の動きなどの変化が出てきていますが、お客様からの引き合いや、NESIC からの提案などにも変化が出てきていますか。

A：コロナが落ち着いてきたとは言え、コロナ前に戻ることはありません。すでに DX 活用の重要性が認識され、それを踏まえたニューノーマルな働き方へとニーズが変化しています。働き方のみではなく、企業体質や文化なども含めた変革へとニーズが高度化していると感じますし、当社としてもデジタルツインと呼ばれるような技術も活用しつつ、そのようなニーズに合う提供モデルへ変えています。大口継続顧客が 5% 増えたと申し上げましたが、この層がこのようなニーズの中心を担っています。

Q：成長に向けた積極的な費用投入について、どのような内容に使っているのですか。

A：前期においては、増加した SG&A 約 35 億円のうち、4 割程度*が本社移転の費用で、残りはソリューション開発やリソース強化などの事業への投資が中心でした。新年度についても、同様の目的で増加させる考えですが、本社移転の費用にかわって、データ活用強化のための基幹システム関連の情報化投資が大きく増える計画です。

*ミスがあり修正しました

質問者 D

Q：NWS の前期実績について、海洋や宇宙関連が伸びたとありましたが、どういった事業

でしょうか。また、今後もこういった社会基盤領域は拡大が期待できるのでしょうか。

A：海洋事業は、主に海底通信ネットワークのルート設計や陸揚げを含む敷設事業を行っており、これは NEC とも連携しながら事業を行っています。この事業は、洋上風力などほかの事業へも技術が転用・応用できるので、今後も期待している事業です。なお、海底通信網自体、他社が手掛けない特殊な領域ですが、この陸揚げに伴う掘削技術なども特殊な技術を用いており、どこの会社でもできる仕事ではありません。

宇宙関連は、宇宙活用のための通信設備への投資が堅調で、これは当社が直接請け負っている事業になります。現状、NWS については、通信事業者向けは厳しいものの、社会基盤関連事業が堅調で、通信事業者向けの厳しさをカバーしていく材料になると考えています。

以 上